

JBCF

JAPAN BICYCLIST CLUB FEDERATION

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

2015年度事業活動方針 発表会

於:目黒自転車総合ビル
2014.12.13

2015年度 JBCF事業活動方針発表会

■次 第(午前の部)

- | | | |
|----------------------------|-------------|------------|
| 1. 開会の挨拶 | 11:00～11:05 | 理事長 斧 隆夫 |
| 2. 2015年度 事業方針、計画 | 11:05～11:30 | 理事長 斧 隆夫 |
| 3. 2015年度 Jプロツア-登録チームの発表 | 11:30～11:35 | 理事長 斧 隆夫 |
| 4. 2015年 レースカレンダー-案発表 | 11:40～11:50 | 事務局長 小黒 一弘 |
| 5. 2015年 JBCF GUIDE 変更点の説明 | 11:50～12:00 | 事務局長 小黒 一弘 |
| 6. 質疑応答 閉会 | 12:00～12:15 | |

JBCF 基本方針

継続
Keizoku

拡大
Kakudai

向上
Koujyou

JPT〈Japan Pro Tour〉を日本国内トップカテゴリーのロードレースとして、その価値を高める

それらがプレステージを高め、東京オリンピックを目指すうねりが
ファンを創出、競技人口の拡大に繋げる
クラスタ制度とランキングで
魅力ある連盟運営
よってサイクルレースをメジャースポーツに近づける

2010～11 全日本実業団自転車競技連盟活動方針

魅力ある連盟（競技で楽しく、見て愉快、目指すはTR.世界へ）

●メジャースポーツの仲間入り(魅せる試合、やる試合へ)

TRの進化: 価値創造、最適TR制度の見直し、国際化
自力運営意識、行動の醸成
スピーディな競技運営、役員レベルUP, 中堅養成

●情報発信力の向上

広報強化: メディアへの露出(広報委員会の最重点課題)
IT駆使しリアルタイムな情報発信
連盟HPコンテンツ充実、リザルト、動画の制作等

●事務局活動の変換 管理からサービスへ

Web活用: 窓口業務の改善(ご意見相談 Eメールbox化、内容整理)
新管理システム余裕捻出(登録、エントリー、入金、ランキング)
連盟情報伝達のHP活用、郵便電話からEメールへ
各種会議の定期化、制度検討委員会準備

2015年 JBCF活動方針

魅力ある連盟（今年はより高く・・・）

競技で楽しく、見て愉快、目指すはJPTから東京五輪へ

1.メジャースポーツへの成長（魅せる、創るレースへ）

グローバルスタンダード&オリジナルも醸成

2. 情報発信力の進化向上

メディアミックス・アプローチ・即応力

3.本部機能の充実（事務局）

Webを駆使・HPの活用・データベース利用展開

2015年 JBCF活動方針

1. メジャースポーツへの成長（魅せるレース、創るレースへ）

Jツアー進化：JPT価値向上

2015年も2ランク制を継続（トッププロ10+12チーム）

JPTチームのレベルアップ（チーム登録条件・契約内容充実してゆく）

- 大会運営
- 集客・ファンの拡大推進（開催地域拡大、ファンクラブ、動画展開）
 - 年間スケジュール早期策定（JFT, JYTの拡充、優先処遇対応も）
 - UCIルール、ベースの大会運営（グローバル・安全性・公平性の確立）
 - 競技審判役員のスキルアップ（若手育成・大会配備システム活用）
- 国際化
- ジュニアの重点育成（JYTからヨーロッパ実戦強化派遣へ）
 - 健康な連盟（A・ドーピング活動の周知、環境配慮、気品ある行動）
 - 連盟強化（チームアテンダント、審判、ドーピング講習会など）
 - UCIレースの開催準備を始める（国内でのUCIポイント獲得）

2015年 JBCF 活動方針

活動方針・目指す姿

「価値の進化」
Jプロツアーを日本国内の
トップカテゴリーとして
その価値を高めていく

「ファンの創出」
東京オリンピックを
目指すうねりが、多くの
ファンを生み出す

「競技人口拡大」
クラスタ制とランキン
グの質を高め、競技人
口の拡大に繋げる

自転車競技をメジャースポーツへ

目標に向かっての取組み

オリンピック、世界戦へ向けて

- ・ Jプロツアーは、大会実戦強化でチーム総合力アップへ
- ・ ジュニア育成・海外派遣・欧州拠点での参戦、強化合宿

【ジュニア実戦強化の成果】

本年の世界選手権個人Jr.ロードで、実業団加盟のJr.選手2名が男女それぞれトップグループで大健闘した。

坂口聖香 13位 (93名出走) 石上優大 17位 (187名出走)

UCI・JCFルール基準で公平・安全性の重視の大会運営

- ・ 2日間(Two in One)開催大会へのアプローチ, UCI & 国際大会
- ・ 2016年にUCI公認ロードレース、その開催準備を進める
- ・ 安全優先レース運営、安全講習、ポイント制改定

レベルの高いフェアな活動、人材育成

- ・ 公平・安全なレース、アンチドーピング、交通ルール遵守
- ・ チームアテンダント、アンチドーピング、審判ブラッシュアップ等の講習会を積極的に開催

ファン層の獲得、競技人口の拡大へ

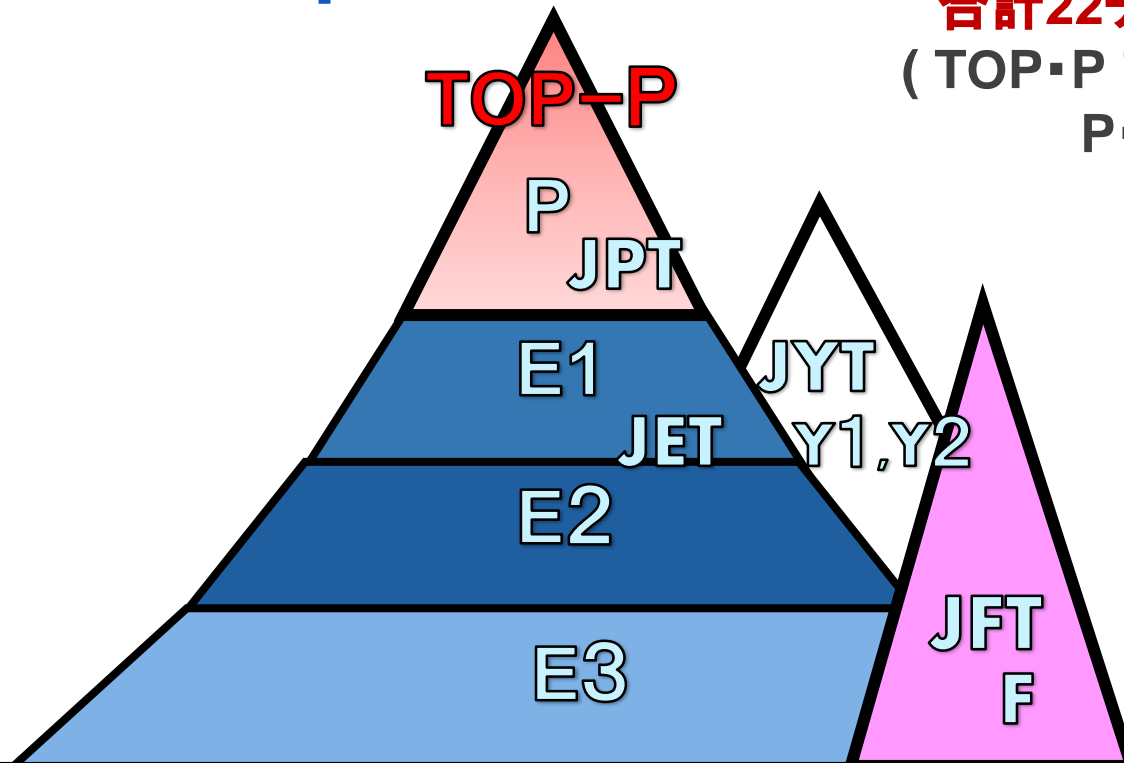
- ・ ホームページは、初心者(競技、観戦)にも、わかりやすく
- ・ 広報強化・情報発信力の進化向上
- ・ 一般レース併催イベントの充実でファン層・底辺拡大

JPT を日本国内トップカテゴリーの 自転車ロードレースとして、その価値を高める

Japan Pro Tour

2015年は
合計22チーム
(TOP・P 10チーム
P・12チーム)

P1-228名
E1-368名
E2-501名
E3-1270名
F1-110名



エントリーライダーも含むツアーのハードルを下げ底辺拡大

2015年 JBCF 活動方針

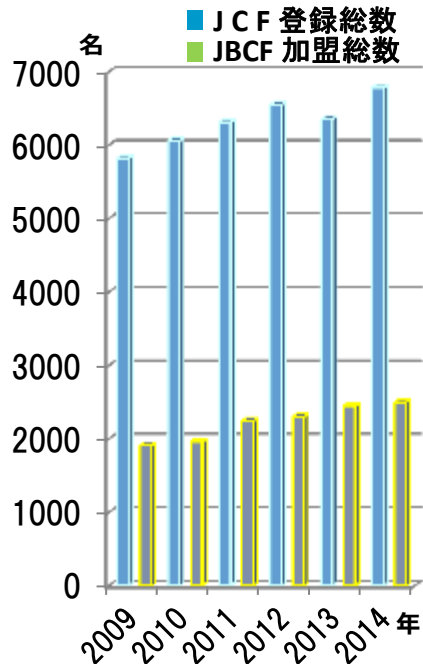
弊連盟の位置づけ

JCF全国組織登録者分布グラフ

JCF登録者総数 6783名



加盟登録者推移グラフ



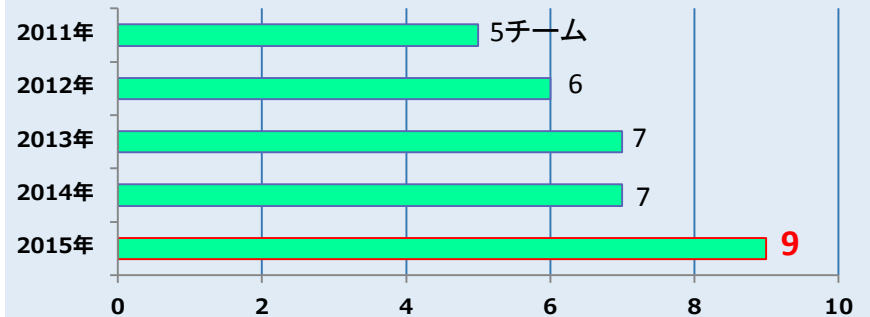
JBCF=(一社)全日本実業団自転車競技連盟は、毎年増加傾向で、JCF=(公財)日本自転車競技連盟の全登録競技選手のほぼ4割をも占める広範囲な選手層を擁する。

オリンピック、世界選手権へ

UCIコンチネンタル9チーム(申請中)
全チームがJPTへ参戦!

日本国内より2015年UCIコンチネンタルチームへ申請中の9チームが、全てJプロツアーに参戦することになりました。

JBCF加盟チームの
UCIコンチネンタルチームへの登録数推移



JBCFのトップカテゴリー(Jプロツアー)加盟チームは、年々その力(競技、指導、経済、地域貢献など)を蓄え、オリンピックや世界選につながる「UCIコンチネンタルチーム登録」へと、成長を続けている。

JBCFが主催する2015年 JBCF J Pro Tourに参加するためには、下記条件を満たすこと。

1. 大会参加義務

各登録チームが参加すべき大会数は次のレースの合計を**50%**以上とする

①「JBCF J Pro Tour」全レース

②JBCFが認める国内、海外レース

(海外レースはUCIカレンダーに掲載された大会に参加し、それが国内レースと重なる場合は参加したものとみなす。ただしJBCFにその参加海外大会を報告する)

2. 参加可能大会

JBCFが主催もしくは公認する大会で

①年内に発表される「JBCF GUIDE 2015」に定めるレースレイティング【AAA】【AA】【A】の大会

②UCI公認国際大会

③その他JBCFが指定するUCI大会に参加してUCIポイントを獲得した選手には、国内のJBCF個人ランキングポイントに換算し付加する。ただし、海外、国内を問わずJBCFが主催公認する大会以外へ参加する場合は届出ること。

3. 広報、PR活動への協力

- ①JBCFに登録している選手、チームは、JBCFが自らのために広告、宣伝活動を行うときは原則として無償で協力する。
- ②大会会場ではJBCFの許可を得ず広告、宣伝活動を行わない。
- ③チームは独自のチームロゴ、またはエムブレムを作成し、チームジャージとともにJBCFへ届け出る。その使用についてはJBCFに許可をする。

4. 優先駐車

優先駐車場を指定された大会では指定場所に駐車すること。また、チーム名称プリントの最低1個のチームテント(3m×3m)及び、会場駐車スペースによってTOP-Pには2台の駐車を認める。

5. チームカー

最低1台のUCI規定に定めるチームカーを保有すること。

- ①TOP-Pチームは車両の外板部をできる限りチームロゴ、イメージデザインで露出させる、TOP-Pには、チームサポートカー導入できる大会の参加を認めてゆく。
- ②他のJPTチームも“最低A3サイズ相当以上のチーム名称を車体の前部及び左右の3カ所以上“に掲示した車両とす。

6. 選手との契約など

- ①他チームに在籍する選手との間で、自チーム選手としての契約を締結しようと意図している場合は、当該選手との交渉に入る前に書面により当該選手がその時点で在籍するチームに通知しなければならない、また、その書面の写しをJBCFに提出すること。ただし、その内容には、JBCFは関与しない。
- ②UCI登録チームの選手は移籍、脱退などUCIが定める規定を遵守する。
- ③チームと選手が契約するときは合意内容を明確にし、なお、健康状態も確認しておくこと。

7. 講習会などへの参加

各チームスタッフはチームアテンド講習会、アンチドーピング講習会など、JBCF・JCFが主催、公認する講習会に出席、またはそれに代わる資格を。本年度から各チームは1名以上の資格所有者が在籍していること。（来年3月までに講習会を JBCFで東西各1回開催予定）

8. J Pro Tour登録料(分担金)

チーム年会費とは別にJ Pro Tour登録料(分担金)5万円を負担する。分担金は2015年のJ Pro Tour 全戦の動画映像記録作成のための費用の一部を補填するもの。

9. 契約期間 原則1年間とし、毎年1月から12月末日とする。

10. JBCFが定める著作権取扱規則(下記、JCFの規則に準じる)を遵守する。

(公益財団法人日本自転車競技連盟 競技規則 2014 より引用)

・第2章第5条2.(9)

本連盟の公認競技大会における登録証所持者の肖像権は、本連盟に帰属する。

・登録者規程

(公益財団法人日本自転車競技連盟 競技者登録申請書の記載事項より引用)

・個人情報、肖像権の管理について

本連盟が取得した個人情報は、資格の確認及び諸連絡を行うために使用します。また、氏名、生年月日、所属、競技成績、競技歴、写真などを広報目的と大会運営に使用、大会においてはこれらの情報をポスター、プログラム、コミュニケ等に掲載します。なお、新聞等メディアに掲載される場合があります

2015年 JBCF 活動方針 チーム登録条件(抜粋)

Jプロツアーチーム価値の STEP UP

2015年JPT 加盟登録規定(抜粋)

- ・チームはロゴ・エンブレム作成. チームジャージ、チームカー等に活用
- ・TOP-Pはチームカーをイメージデザインで露出、会場により2台駐車可とする
- ・チーム名のプリントされた最低1個のチームテント(3×3m)を保有
- ・JPTチームスタッフはT・アテンダント講習、コーチ、指導員等資格1名以上必須
- ・登録人数はライダーステイタス選手5名から16名・Min出走人数3名以上
- ・チームと登録選手は契約関係を明確にしておくこと
- ・各チームは連盟の広報・宣伝活動に協力をする

2017~18年のプロツアーのイメージ

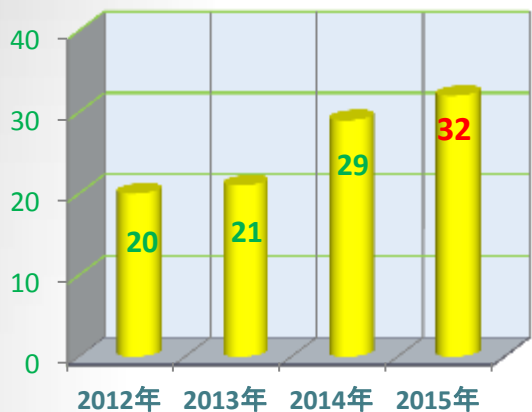
- ・創立50周年、新ステージへ、よりプロレースに相応しい運営レベルに進化
- ・厳選大会(Two in One)をTOP-Pのレースとしツアー戦(転戦)を展開
- ・上記にUCIレースの導入、連盟・チーム・選手の価値をグローバルに運用

これからの新規取組概要

- ・2日間同地開催大会(Two in One)を今年6レース開催
- ・2016年以後UCI公認ロードレース、その開催準備をする
- ・外人選手枠の設定、TOP-PとPの入れ替え実施(2016年より)
- ・安全優先レース運営、安全講習(E,Y,F)、ポイント制改定
- ・ジュニア育成・海外派遣・欧州拠点での実戦参加強化合宿
- ・学連、高体連との連携を深め、参加もオープンな実施加速
- ・各種チーム・スタッフ講習会の義務付けを必須とする

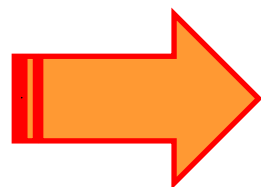
2015年 JBCF 活動方針

JBCF シリーズ開催地推移

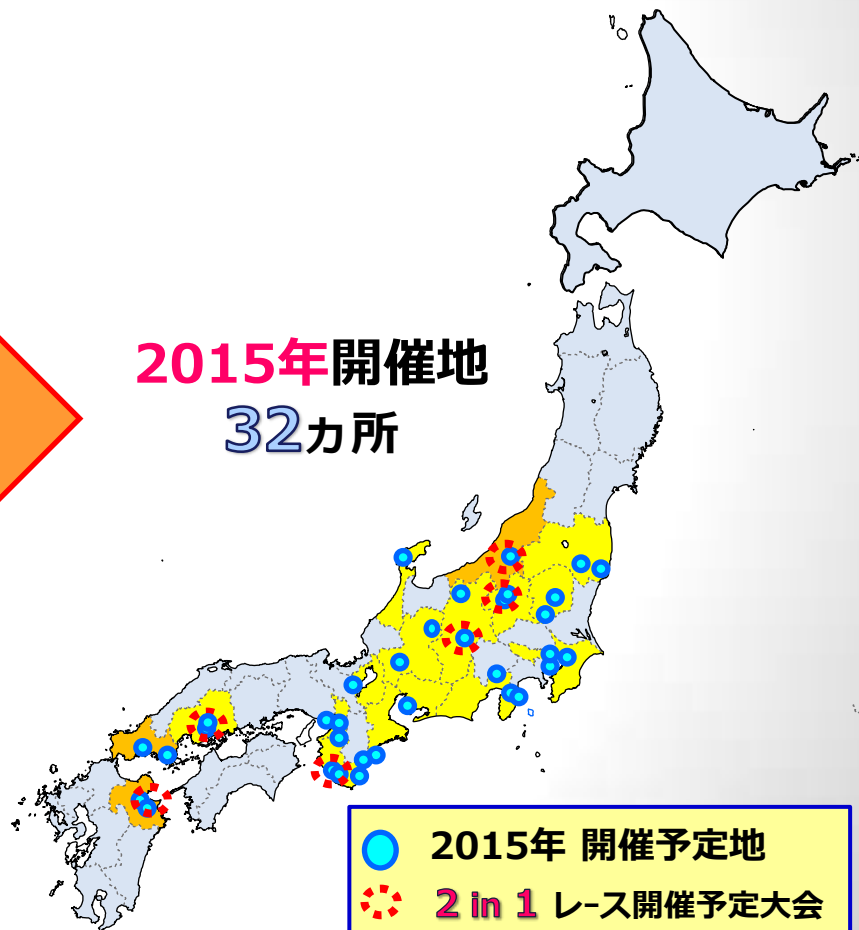
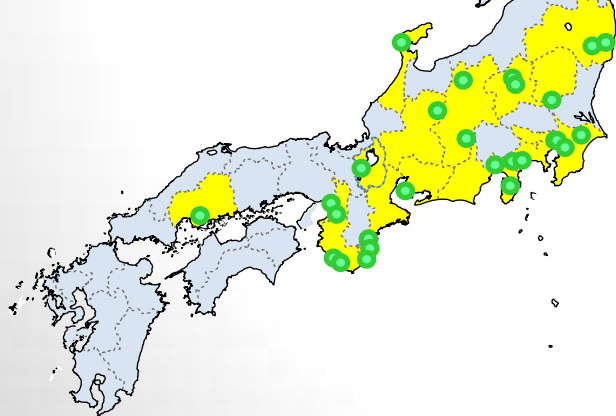


2012年開催地
20カ所

全国各地でのレース開催、
Two in One レースを目指して



2015年開催地
32カ所



- 2015年 開催予定地
- ⊙ 2 in 1 レース開催予定大会
6開催地

2015年 JBCF活動方針

持続可能な地球環境を Sustainable

環境との共生：自転車レースシーンでできること

競技マナー向上

- ・補給/回収ゾーン徹底、“禁ごみ”活動
- ・真のスポーツ環境へ“禁煙”

競技運営

- ・“CO2削減”レースのエコ運営
- ・レース車両のハイブリッド車活用

競技外の活動

- ・ペーパーレス進化と最適・最少へ
- ・ホームページ、タブレットの活用

地域社会への貢献

集客による経済効果

- ・大会前の事前視察、試走目的の訪問
- ・大会時の宿泊、食事等での直接効果
- ・大会後の観光目的のリピーター訪問

地域の活性

- ・地域密着型チームの発生へ
- ・地元住民がチームを応援し団結力養成
- ・地元への愛着心が増し、人口流出歯止

健康増進

- ・自転車が身近になり、通勤通学時の自転車利用や、サイクリングの実施を促し、地元住民の体力向上や健康増進に寄与する

2015年 JBCF 活動方針今後のスケジュール

JPTの登録は、昨年のJBCFガイドの通り、2014年JPT年間ランキング上位10チームと、JET1位の11チームにシード権が与えられています。

このシード権チームと、非シードチームからのJPT参入希望チームによって、選考され、JPTの2015年は22チームで編成されます。

- 2014年10月11日(土) 2015年JPT参入チーム登録条件発表(HP・輪島M.M)
- 11月 3日(日) 大分クリテリウムJPT公式戦最終大会
- 11月 5日(火) ランキング上位10確定+1チーム、非シードチーム受付開始
- 11月16日(日) チーム登録申請締め切り
- 11月18日(火) 選考会議(JBCF理事会)
- 12月16日(土) 2015年連盟方針発表会(シード&選考チーム概要発表)
場所: 自転車総合ビル
時間: 11:00~12:00 チーム関係者,後援・協賛団体・競技関係者
13:30~15:00 メディア関係者・チーム紹介とチームプレゼン
- 2015年 1月 5日(月) 加盟登録受付開始
- ~1月31日(土) 加盟登録締め切り
- 3月15日(日) **Jプロツアー第1戦開催**(第2回 JBCF 宇都宮クリテリウム)



宇都宮クリテリウム



本日はありがとうございました

今後とも、より一層の

ご支援よろしく願いいたします

JBCF

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

理事長 斧 隆夫